

○保護者の方へ（接種を受ける前に必ずお読みください）

おたふくかぜワクチン接種説明書

予防接種は、体調の良い日に受けるのが原則です。

お子さんが次に当てはまる場合には、予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱（通常37.5℃以上をいいます。）がある場合
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ おたふくかぜワクチンの成分に対して、過敏症を起こしたことがある場合
- ④ その他、医師が予防接種を受けない方がよいと判断した場合

また、次に当てはまる場合は、接種前に医師に相談してください。

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けているお子さん
- ② 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられたお子さん
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全症の者がいるお子さん

1 おたふくかぜについて

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎、ムンプス）は、ムンプスウイルスの飛沫によって感染します。潜伏期間は2～3週間です。主な症状は耳下腺の腫脹で、顎下腺、舌下腺が腫脹したり、発熱を伴うこともあります。年長児や成人が罹患すると、合併症の頻度が高くなります。合併症で最も多いのは、無菌性髄膜炎で診断される頻度は1～10%です。また、頻度は少ないですが、他に脳炎、膵炎などがあります。男性では精巣炎、女性では卵巣炎を合併することもあります。最近では、特に難聴合併への注意が促されています。

2 ワクチン接種について

国内での流行時調査では、ワクチンの発症防止の効果は80%程度と考えられています。また、ワクチンを受けていたにも関わらず発症した人のほとんどは、軽くすんでいます。おたふくかぜの発病は、3～6歳が多いため、少なくとも好発年齢である3歳より前に接種をすることが勧められています。なお、日本小児科学会は、予防効果を確実にするため、麻しん風しん混合2期と同時期に2回目の接種を推奨しています。

3 副反応について

重大な副反応としては、アナフィラキシーの報告がまれにあります。また、耳下腺の軽度腫脹が約1%、無菌性髄膜炎が0.03～0.06%の頻度で発生するとの報告があります。

【 裏面もお読みください 】

4 接種後の注意点

- ・接種後に重いアレルギー症状が起こることがありますので、接種後少なくとも30分間程度は安静にしてください。
- ・接種後は、接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。
- ・接種当日は、はげしい運動は控えましょう。
- ・健康状態の観察を行い、体調の変化に十分注意してください。高熱、けいれんなどの異常な症状がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

5 健康被害救済制度について

おたふくかぜワクチンの接種により健康被害が生じた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）による「医薬品副作用被害救済制度」に基づく救済の対象となります。健康被害の内容が給付の要件を満たした場合は、医療費などが支給されます。なお、給付の要件や給付額などは、定期接種による健康被害の救済とは異なります。

お問い合わせ先
須賀川市：健康づくり課

☎（８８）８１２２